

## 特集 助成金獲得成功のポイント！ 講座受講レポート（あすびあ職員・佐藤大介）

公益財団法人トヨタ財団から講師を迎えた「助成金講座 助成団体が教えます！獲得成功のポイント」という講座を受講しました。表題の通り、助成する団体側がどのように考え選考を行うかについて、なるほど！と思うポイントを教えていただきましたのでシェアいたします。

場所は新宿 NPO 協働推進センター、定員は 20 名とのことでしたが、おそらく 50 名ほどの受講者がいたかと思います。会場は満席状態でした。挙手確認で見たところ、今期のトヨタの助成金に申込み検討している方も多く参加しているようでした。

講座は 2 部構成、第 1 部は助成金について概論的なお話、第 2 部は今期のトヨタ財団助成プログラムについての内容でした。

### ◆ 第 1 部 助成金について

NPO や団体の資金源には事業収入、委託、会費・寄付、補助金などがあり、助成金もそのうちのひとつだが、助成金は助成団体の定める助成プログラムの趣旨、理念や目的など、出す側の考えに依るものになる。つまり、応募する側がどんなに素晴らしい活動をしていても、助成団体側と向いている方向性が違うと対象にはならない。

助成団体数はおよそ 3000 団体あり、各団体は例年同時期に助成を行っている例が多いので、年間スケジュールを立てじっくり準備を行うのもよい。

助成金の使い方は新規事業開発、立ち上げ期が向いている。金額は 50 万～150 万円くらいが多く、経常的な活動は一過性の助成金に依存しない方がよい。ほとんどは一定の成果を求められるので、助成金を得て事業を進めることは大変なことも多い。

### ◎ 助成金を得ることには、資金獲得以外にもメリットがある！

- 1、期間が決まっているので、短い期間で成果を得られる。
- 2、企画書を書く過程で事業の目標、関係者、取り組む課題の整理ができる。
- 3、やりたいことを言語化することで仲間が見つかる。同じ目的を持つ他の団体との出会いがある。
- 4、助成団体とのパートナーシップが築ける。

助成金についてというテーマのお話でしたが、課題改善・解決、仕事づくりなどについて、日本のトップ企業がこの先に何を見据え、何を求めているのかということ、応募者への向き合い方、期待などの一端も感じられた講座でした。

- 5、ウェブサイトなど助成団体の広報媒体に載る。
- 6、社会的信頼につながる。

### ◎ 申請書を書くポイント！

- 1、何をしたいかでなく、どんな対象に、どんな課題を、どのように改善・解決、どういう成果を目指すかを明確に書くこと。
- 2、募集要項をよく読むこと。プログラムの趣旨を外さないこと。ウェブサイトなどで助成団体の理念や方向性を確認することも有効。助成団体にも目的が有ることを認識し、自団体のビジョンや事業計画と合っているか確認する。
- 3、平易な言葉で書く。選考委員は必ずしもすべての分野の専門家ではない。
- 4、メンバーで共有。申請書を書くプロセスを合意形成のプロセスにする。
- 5、第三者に読んでもらい全体のロジック、一貫性を確認してもらう。

### ◆ 第 2 部 トヨタ国内助成について

今回の助成プログラムテーマは「未来の担い手を創造する持続可能なコミュニティ」～地域に開かれた仕事づくりを通じて～。このテーマで「しらべる助成」という課題調査に対しての助成を行っている。

（注：今期の募集はすでに終了しています）

### 〈今期テーマでの審査の重点ポイント〉

審査にあたり課題調査の精度についてはそれほど多くを求めてはいない。

課題そして「カイゼン」の仮説の立て方、困りごと・問題のつながり、どの様な人に聞いてつながっていくかということ、担い手育成、関係者との連携、パートナーシップづくりを重視。また、中間支援施設など伴走者との連携も大きな加点評価にしている。

